

平成12年度 冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成12年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成13年9月12日(水)、植調会館3階会議室において開催された。

本年度供試された冬作関係除草剤は、作用性試験6剤、適用性試験12剤で、生育調節剤はなかった。

このうち適用性試験については、慎重に試験成績を検

討し、実用化についての判定を行った。

また、本年度は「畑作における茎葉処理剤の有効利用に関する研究会」で試験された薬剤についても試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表のとおりである。

平成12年度 冬作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除草剤

I. 適用性試験

(1) 小 麦

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地帯	使用上の注意	
1.F-701 顆粒水和 ・カルフェントラフ・ニエチル 0.7% ・グリホサートアンモニウム 塩 25%	継								・効果、薬害 の確認
2.MK-243 顆粒水和 ・インタ・ノファン 50%	継								・低薬量での 効果および 年次変動の 確認
4.MON-96A 液 ・グリホサートアンモニウム 塩 41%	実	多年生 イネ科 雑草(シ バミギ、レ ッドトッ プ)	茎葉	耕起5日以 前 雑草生育期	50mL 散布水量 10L	全土壌	寒地	1) 少水量散布の 場合は専用ノ ズルを使用す る。 2) 周辺作物に飛 散しないよう に注意する。 3) 展着剤を加用 しない。	
		一年生 雑草全 般		耕起10日以 前 雑草生育期	25~50mL 散布水量 2.5~10L		寒冷地 以西		
5.MRS-195 液 ・グリホサートトリブ・ロビ ルアミン塩 41%	実	多年生 イネ科 雑草(シ バミギ、レ ッドトッ プ)	茎葉	耕起7日以 前 雑草生育期	37.5~50 mL 散布水量 10L	全土壌	寒地		

注) _____ は、拡大された部分を、_____ は、一部拡大されたことを示す。

薬剤名の _____ は、初めて使用基準が作成されたことを示す。

(1) 小麦 つづき

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地帯	使用上の注意	
7. NH-501 フロアブル ・ピラフルフェニル 0.19% ・クアリサートリメシウム 塩 28.5%	実	多年生 イネ科 雑草(シ バムキ、レ ットトッ プ)	茎葉	耕起7日以 前 雑草生育期	37.5~50 mL 散布水量 10L	全土壌	寒地		
8. NH-9301 フロアブル ・ピラフルフェニル 2%	実・継	一年生 広葉雑 草	茎葉	広葉雑草 2~4葉期	5~10mL 散布水量 10L	全土壌 (砂土を 除く)	全域	1) 体系処理：イ ネ科雑草に有 効な既登録土 壌処理剤との 組合せで使用 する。 2) 極端な低温条 件では10mLを 使用する。 3) 越年した雑草 に効果が劣る。 (寒地) 4) 展着剤を加用 しない。	・ヤムグ 5~6 節期処理で の効果、薬 害の確認
				春雑草発生 始期	5~7.5mL 散布水量 10L				
		ヤムグ 5~6 節期まで		ヤムグ 5~6 節期まで	5~10mL 散布水量 10L		温暖地		
9. RSH-44L 粒 ・ジフルフェニカン 0.15% ・トリフルリン 2%	実・継	一年生 雑草全 般	土壌	播種後	300~500g	全土壌 (砂土を 除く)	寒地	1) 砕土、整地、覆 土をていねい に行って均一 に散布する。 2) 一過性の白斑 を生じることが ある。 3) 雑草の発生が 早い場合は早 めに処理をす る。	・生育初期処 理での効果 の変動要因 の解明
					400~600g		寒冷地 以西		
				小麦1~2葉 期(雑草発 生始期)	400~500g				

(2) 大 麦

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地帯	使用上の注意	
1. F-8426 顆粒水和 ・カルフェントラザンエチル 40%	実・継	ヤムグ 5~6 節期	茎葉	ヤムグ 5~6 節期	0.3~0.5g 散布水量 10L	全土壌	温暖地 西部	1) ヤムグ 5~6 節期以外の 雑草に有効な 除草剤との組 合せて使用す る。 2) 展着剤を加用 しない。	・適用草種の 拡大 ・効果の確認

(2) 大 麦 つづき

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地帯	使用上の注意	
2. MK-243 顆粒水和 ・インタノファン 50%	継								・ 効果、薬害 の確認
3. RSH-44L 粒 ・ジフルフェニカン 0.15% ・トリフルラリン 2%	実・継	一年生 雑草全 般	土壌	播種後 大麦1～2葉 期（雑草発 生始期）	400～600g 400～500g	全土壌 （砂土を 除く）	寒冷地 以西	1) 碎土、整地、覆 土をていねい に行き均一 に散布する。 2) 一過性の白斑 を生じること がある。 3) 雑草の発生が 早い場合は早 めに処理をす る。	・ 生育初期処 理での効果 の変動要因 の解明

(3) い ぐ さ

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地帯	使用上の注意	
1. KPP-2005 ジャンボ ・クミロン 15% ・ベントキサザン 4.5%	継								・ 投入部の薬 害の確認
2. S-604 乳 ・クレジム 23%	継								・ 処理時期と 効果、薬害 の確認

II. 畑作における茎葉処理剤の有効利用に関する研究会

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地帯	使用上の注意	
1. Hoe-866 液 ・グリホサート 18.5%	実・継	一年生 雑草全 般	茎葉	耕起7～14 日 播種後出芽 前（雑草生 育期）	30～50mL 散布水量 10L	全土壌	寒冷地 以西 温暖地 東部	1) 周辺作物に飛 散しないよう に注意する。 2) 展着剤を加用 しない。	・ 播種後処理 における広 葉雑草に対 する効果お よび年次変 動の確認

II. 畑作における茎葉処理剤の有効利用に関する研究 づき

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地帯	使用上の注意	
2. MON-96A 液 ・グリホサートアンモニウム 塩 41%	実・継	多年生 イネ科 雑草(シ バムギ、レ ットトッ プ)	茎葉	耕起5日以 前 雑草生育期	50mL 散布水量 10L	全土壌	寒地	1) 少水量散布の 場合は専用ノ ズルを使用す る。 2) 周辺作物に飛 散しないよう に注意する。 3) 展着剤を加用 しない。	・ 播種後処理 の低薬量に おける広葉 雑草に対す る効果およ び年次変動 の確認
		一年生 雑草全 般		耕起10日以 前 雑草生育期	25~50mL 散布水量 2.5~10L		寒冷地 以西		
				<u>播種後出芽 前(雑草生 育期)</u>	25~50mL 散布水量 5~10L		温暖地 東部		
3. NH-501 フロアール ・ピラフルフェニル 0.19% ・グリホサートトリメシウム 塩 28.5%	実・継	多年生 イネ科 雑草(シ バムギ、レ ットトッ プ)	茎葉	耕起7日以 前 雑草生育期	37.5~50 mL 散布水量 10L	全土壌	寒地	1) 周辺作物に飛 散しないよう に注意する。 2) 展着剤を加用 しない。	・ 播種後処理 の低薬量に おける広葉 雑草に対す る効果およ び年次変動 の確認
		一年生 雑草全 般		<u>播種後出芽 前(雑草生 育期)</u>	40~60mL 散布水量 10L		温暖地 東部		
4. WOC-01 液 ・グリホサートイソプロピ ルアミン塩 41%	実・継	多年生 雑草全 般(シバム ギ等)	茎葉	耕起7日以 前 雑草生育期	50mL 散布水量 10L	全土壌	寒地	1) 周辺作物に飛 散しないよう に注意する。 2) 展着剤を加用 しない。	・ 播種後処理 の低薬量に おける広葉 雑草に対す る効果およ び年次変動 の確認
		一年生 雑草全 般			25~50mL 散布水量 10L		寒冷地 以西		
				<u>播種後出芽 前(雑草生 育期)</u>			温暖地 東部		